

**【がん種】** [多発性骨髄腫](#)  
**【レジメン名】** 皮下DBd③9コース目～  
**【登録番号】** 011350  
**【1コースの期間】** 4週間  
**【投与間隔調整規定】** -3日  
**【総コース数】** PDまで(皮下DBd②4～8コース目 終了後から)  
**【催吐性リスク】** 最小度:ダラキューロ  
**【抗がん剤の組織障害性】** ノンビシカント(非壊死性):ダラキューロ  
**【投与量に制限のある薬剤】** なし  
**【主な有害事象】** 白血球減少、好中球数減少、貧血、血小板数減少、注入に伴う反応、疲労、傾眠、間質性肺炎、悪心、嘔吐、食欲不振、下痢、便秘、注射部位反応

**【必要な検査】** 一般採血、間質性肺炎の確認、治療開始前に間接クームス試験を実施する(最終投与から6か月後までは、検査結果が偽陽性になるおそれがあるため)。  
**【根拠論文】** N Engl J Med 2016;375:754-66. Lancet Haematol 2020; 7: e370-80.

**【点滴の時間】** -  
**【その他】** ダラキューロ:治療開始前に間接クームス試験を実施する(最終投与から6か月後までは、検査結果が偽陽性になるおそれがあるため)。

Rp	薬剤名	量	投与方法	投与時間	投与日		
					1	...	28
1	レスタミン錠 10mg アセトアミノフェン錠 200mg デカドロン錠 4mg	5 錠/回 4 錠/回 5 錠/回	内服	1日1回 ダラキューロ投与1時間前	○		
2	ダラキューロ配合皮下注 臍から左 or 右に約7.5cmの腹部	1 本 調製開始から4時間以内に投与終了	皮下注	23～25Gの針 3～5分	○		

【皮下DBd③9コース目～減量・休薬・中止基準】

N Engl J Med 2016;375:754-66.

減量	ダラキューロ
開始量	1800mg/body
1段階	減量しない
2段階	
3段階	

有害事象	Grade	用量調整
注入に伴う反応	3	3回発現した場合、ダラキューロ中止
	4	ダラキューロ中止
血液毒性	4	ダラキューロ休薬
Grade3以上の非血液毒性		ダラキューロ休薬

※下記の場合は除く

- ・制吐療法に反応する悪心・嘔吐 3≦
- ・止瀉薬に反応する下痢 3≦
- ・ベースライン時に認められていた、又は最終投与後7日未滿持続するGrade 3の疲労又は無力症